

8月2日に開催された富士見防災リーダー養成講座の様子



▲ 災害図上訓練 (DIG) に取り組む受講者の皆さん

想定される災害情報を地図に書き込み、地域に潜む災害の危険性を「見える化」して、避難方法などを話し合うことで、住んでいる地域における防災について、実践的に学ぶことができます。



▲ ペット防災講座

災害時、ペットも安全に避難できるよう、ペット同行避難における備えやしつけなどについての講座も行いました。



▲ 避難所運営ゲーム (HUG) に取り組む受講者の皆さん

避難所などに見立てた平面図の上で、避難者の性別や年齢などが書かれたカードの配置や対応を話し合うことで、避難所における部屋割りやトイレ、炊事場といった設備の配置などをゲーム感覚で学ぶことができます。

【特集】共助の力で災害に備える

図 危機管理課 ☎049-256-7962

大切な命を守るために

本市は、木造住宅が密集した市街地や狭隘な道路など、地震や火災などの被害を受けやすい地域があるほか、都市化が進み、アスファルトやコンクリートに覆われた地域が多いことから、集中豪雨による都市型水害も懸念されています。

また、本市で近年発生した主な災害では、平成28年8月の台風9号、平成29年10月の台風21号、令和元年10月の台風19号などにより、一部の地域で床上・床下浸水のほか、一時的に道路冠水などの被害が発生しました。

大規模災害発生時には、市や県、消防、警察といった公的機関による救助・援助である「公助」だけでは市民の命を確実に守ることが難しいと考えられることから、これまでの大規模災害の教訓を生かし、「自助」・「共助」による地域防災力を高めるとともに、連携して減災を図るための取り組みを強化することが重要です。

9月は台風の襲来が多い季節です。大切な命と財産を守るために、富士見市防災ガイドブックを読み返す、家庭の備蓄品を見直すなど、改めて身の周りの防災についてご確認ください。



防災ガイドブックはこちら▶

富士見市版防災士を育成

市では、地域防災力のさらなる向上のため、自主防災会の活動の活性化や防災活動に精通した実践的な人材を育成することを目的に、平成26年度から「富士見防災リーダー養成講座」を開催しています。

本講座では、防災リーダーの心構えや役割、自主防災組織に関する講義を始めとして、実際に市内で発生する可能性のある災害を想定し、地図を用いて災害発生時の行動を考える「災害図上訓練 (DIG)」、避難所におけるペットの同行避難について学ぶ「ペット防災講座」、避難所における避難者、設備の配置をゲーム感覚で疑似体験できる「避難所運営ゲーム (HUG)」など、災害発生時に実践的な行動が取れるよう、富士見市版防災士を育成するためのプログラムを構成しています。

本講座は、今年で11回目の開催となり、今までに235人の防災リーダーを育成してきました。

大規模災害発生時、被害の拡大を防ぐためには、お互いに協力しながら、防災活動に組織的に取り組むことが必要です。日ごろから地域の防災訓練などに参加して、共助により、地域の防災力を高めましょう。



アイムふじみ野町会において防災活動に取り組むアイムふじみ野防災会に災害への備えについて伺いました。



◀アイムふじみ野内に設置された防災倉庫。災害時に必要なミネラルウォーターをはじめとする食料や、毛布、簡易トイレなどの防災備蓄品が保管されている。

——地域の特性を踏まえた備えとは
アイムふじみ野防災会では、令和6年1月1日に発生した能登半島地震において、現地では断水の影響でトイレが使用できなくなったことが大きな問題になったことを知り、まずは、高層マンションであるアイムふじみ野ではどんな対策が必要なのかを議論することから始めました。

地震などの災害の影響で水道や下水道が使用できなくなった場合、マンションで生活するうえで一番困ることはトイレが流せなくなるということという意見がありがりました。高層マンションという特性上、居住する階から屋外のトイレに移動することは、高齢者を含めて負担が大きいということもあり、簡易トイレを購入し、断水時に備えています。ミネラルウォーターなどをはじめとする食料はもちろん必要ですが、住んでいる地域や建物によって備える必要がある物品が変わってくることから、地域の方々と話し合い、その地域ではどういった備蓄品が必要なのかを踏まえ、備えることが重要だと感じています。

アイムふじみ野防災会としては、今後も専門的な意見を踏まえ、さらなる備蓄品の充実に向けて取り組んでいきたいです。

■ 自主防災組織の設置・活動の支援を行っています

市では、自主防災組織の活動費用の補助や防災資機材・防災倉庫の設置に要する費用の補助などのほか、未結成の地域には結成に向けた相談の受け付け、結成に要する費用の補助を行っています。

また、町会や自主防災組織の活動において、防災訓練の実施や防災倉庫の備蓄品など、防災活動に関する相談も受け付けています。

問危機管理課 ☎049-256-7962



詳しくはこちら▶

鶴瀬西2丁目南町会で町会長を務める大矢 奈苗さんに、富士見防災リーダー養成講座の受講を通じた災害への意識の変化などを伺いました。



——富士見防災リーダー養成講座を受講したきっかけは

鶴瀬西2丁目南町会で自主防災組織を設置したことです。これまでも小学校区の防災訓練などには参加していましたが、防災に関する実践的な知識をこの機会に改めて身に付けたいと思ったことが受講のきっかけです。

また、町会にお住まいの方々からも、実際に災害が発生した際にどのような対応ができるのか、といった町会内での防災活動・災害対応に対する漠然とした不安の声をいただいていたこともあり、いざという時に役に立ち、町会での活動に還元できるような防災情報を収集するためにも受講しました。

——富士見防災リーダー養成講座を受講しての学びや意識の変化は
講座のカリキュラムの一つである災害図上訓練(DIG)では、人や建物、

地形や災害情報を実際の市の地図に書き込むことで、具体的に市内の多くの地域で水害の危険性が高いこと、また、火災が起きた際にはどのように周囲に影響が出るのかなどを学び、改めて災害はひとつとてはないという意識を持ちました。そして、避難所運営ゲーム(HUG)を通じて、災害発生時の避難所運営では、避難者が殺到しても慌てずに待ってもらい、避難者の情報を集めることを優先し、情報に基づいて避難所内の配置を事前に決めてから案内することで、適切な避難所運営を図ることができるという具体例を学びました。

令和元年10月に発生した台風19号では、市内の一部の地域で被害が生じ、避難所の開設が難しい状況の中で、市内の安全な地域での避難所開設を検討・準備したとのことでした。災害は、住んでいる地域で被害がないと「自分には関係ない」と考えてしまうかもしれませんが、被害のあった地域をサポートすることはできます。講座の受講後は、災害情報をこれまで以上にこまめに確認したり、災害発生時には当事者意識をより強く持つようになりました。

今後は、講座で学んだことを自主防災組織での防災活動、町会内での防災

意識の向上、災害発生時の対応に生かしていきたいです。また、この講座を町会内でも多くの方に受講していただき、講座の受講をきっかけにした地域の防災活動の参加につなげていき、町会・地域の人の輪、そして、共助の力を広げていけたらと考えています。



◀防災リーダーが着用するベスト
FDPLとは、Fujimi・Disaster(災害)・Prevention(予防)・Leaderの頭文字をとったもの。

災害発生時に困らないために… マイ・タイムラインと備蓄品で災害に備えよう！

図 危機管理課 ☎049-256-7962

マイ・タイムライン

避難行動をシミュレーション
マイ・タイムラインは、台風などによる災害の警戒レベルに応じて、住民一人ひとりの避難行動をあらかじめ決めておく防災行動計画です。

まずは居住地の水害リスクを知り、どのような避難行動が必要か、どのタイミングで避難すべきかを自身や家族の状況に即して考えてみましょう。

詳しくは
こちら▶



〇〇家のマイ・タイムライン		家族構成	父 名前	母	年齢	〇〇 花子	78	本人	〇〇 富士夫	45	周囲の状況
		妻	〇〇 太郎	75	長男	〇〇 花子	40	長男	〇〇 春夫	12	・車2台(富士夫と花子が使用) ・花子が避難する際は支援が必要 ・三芳町に避難できる親戚がいる。
経過時間		3日前(台風発生)	2日前	1日前	雨・風が時間とともに強くなる						0時間前
警戒レベル		1相当	2相当	3相当	警戒レベル 3 発令	警戒レベル 4 発令	警戒レベル 5 発令	警戒レベル 5 発令	警戒レベル 5 発令	警戒レベル 5 発令	大雨 特別警戒
マイ・タイムライン		事前しておくことリスト ■台風が発生 ・備蓄品、常備薬 ・防災ガイドブックで避難先と経路を確認 ・排水溝の清掃等 ■台風が家の付近を通過すると判明 ・常にニュースチェック ・三芳町の親戚に連絡 ■避難を開始するまでに ・携帯電話を充電する。 ・避難用の服装に着替える。									
持出品の例		☐非常用持出袋 ☐現金(小銭) ☐ヘルメット ☐レインコート ☐モバイルバッテリー ☐健康保険証 ☐通帳 ☐カード ☐常用薬 ☐印鑑 ☐マスク ☐消毒液 ☐体温計 ☐非常食 ☐かんぱん ☐飲料水 ☐タオル ☐懐中電灯 ☐ラジオ									
		●自宅が浸水する深さ最大(3)m ●河川との距離(140)m ●最寄りの避難所(〇〇小学校)までの距離(2,500)mと時間(40)分 ●ペット避難に必要な持出品() ・太郎と花子は、雨の中、徒歩で避難所まで避難することは困難。避難する場合は、自家用車若しくは、タクシーを使用する。									
		■富士夫と花子が不在の場合 〇〇タクシー(☎●●●●●●●●)を呼び、太郎、花子、春夫の3人は、三芳町の親戚宅に避難する。 ■太郎と花子のみ家にいる場合 外には避難せず、2階に食料、水をもって避難									
		■避難先を記入しよう 花子の運転する車で太郎、花子、春夫は、三芳町の親戚宅に避難(親戚宅で受け入れできない場合、〇〇小学校へ避難) ■避難先を記入しておこう (複数の場所を想定しておこう) 富士夫は、戸締りを実施し、三芳町の親戚宅に車で避難(親戚宅で受け入れできない場合、〇〇小学校へ避難) ■太郎、花子、春夫が避難していることが判明した場合(帰宅してもいない場合) 富士夫と花子は、家族が避難している場所に向かう。									
		■逃げ遅れた場合の命を守るための最善の行動を記入しておこう 新河岸川が氾濫してしまった場合、2階に食料や携帯電話をもって避難									
		【我が家の避難スイッチ】 警戒レベル(3)で(三芳町の親戚宅に避難)する ■親戚宅に行けない場合 ①〇〇小学校 ②家の2階での避難を基本									

防災備蓄品

防災備蓄品を再確認

災害発生時、電気・ガス・水道などのライフラインが使えなくなったり、水没やがれきなどで道路が通行できず物流がストップする恐れがあり、支援物資がなかなか届かない、身近なスーパーやコンビニエンスストアで食品が手に入らないといった状況が想定されます。

こうしたことから、いつ起こるか分からない災害に備え、日ごろから食品などを家庭で備蓄しておくことが重要です。



非常用持出品の準備

- ☐ 非常用持出袋
- ☐ 現金・カード
- ☐ 通帳・印鑑
- ☐ レインコート
- ☐ ヘルメット
- ☐ モバイルバッテリー
- ☐ 常用薬
- ☐ マスクなどの感染症対策用品
- ☐ 1日分の食料(水、非常食、かんぱん)

備蓄品の準備

- ☐ 飲料水・生活用水…3日分の飲料水 ※1日に1人あたり3リットル
- ☐ 食料品…3日分の食料
- ☐ 医療品…救急用品、使い捨てカイロ、はさみなど
- ☐ 停電への備え…予備の電池、懐中電灯など
- ☐ 衛生用品…ウエットティッシュ、歯磨き用品など
- ☐ 情報…携帯電話、ポータブルラジオなど
- ☐ 燃料の備え…固定燃料、ボンベ、卓上カセットコンロなど
- ☐ 携帯トイレ…3日分の携帯トイレ ※1日に1人あたり5回分

■ 飲料水や生活に必要な物品を最低3日分は準備しておきましょう

日ごろから食べ慣れている食料品や使い慣れている日用品を少し多めに買って置き、日常生活の中で消費した分を買い足していくことで、常に一定量の食料品や日用品を家に備蓄しておく方法が「ローリングストック」です。いざという時に食べ慣れた食料品が食べられるよう、ローリングストックに取り組みましょう。

point!

- ・日常的に食べたり使い慣れているものを選ぶ
- ・日常的に古いものから消費する
- ・消費したら買い足すことを忘れないようにする
- ・レトルト食品やカップラーメン、缶詰類、ゼリー、シリアルなどの保存期間が長い食品を選ぶ

備蓄品の目安量を
確認できます▶

